

JA全農えひめ情報

みらい〜ど

■特集

平成24年度事業方針

■JA直売所めぐり

あかがね市「四季菜広場」～JA新居浜市～

4

2012・April





▶延長約500mに150店余が出店。4万人が来場する



▶誰でも楽しめるわらぐろ輪投げ



▶前後祭では花火があがるまつり会場。れんげは合併後の西予市の市花でもある

宇和れんげまつり

(西予市宇和町)



春の宇和盆地には色鮮やかなれんげ畑が広がっています。れんげは水田の肥料に、雑草防止に、家畜の飼料にと活用できる稲刈り後の田に有効な草花です。以前は各地で見られていたれんげ畑もだんだんと化学肥料の使用などにより激減、今では懐かしい風景となっています。

昭和51年(1976)、米作の盛んな旧宇和町では町花でもあるれんげの咲く田を会場に、人を呼び込もうとれんげまつりが始まりました。36回目を迎える今年は4月29日(日)昭和の日にJR伊予石城駅周辺10haのれんげ田を会場に「宇和れんげまつり」を開催します。数あるイベントの中でも、直径3mの白に入った600kgの餅米を長さ10m以上の杵でつくつという日本一の餅つき大会は圧巻です。水を張った田で泥まみれになって展開するどろんこサッカー、わらでつくった高さ5mの巨大マンモスの展示、普段は見ることができない宇和盆地を上空から眺めるヘリコプター遊覧体験、餅まきなど、米どころならではのイベントが多彩です。

れんげ畑を駆けまわり寝転がったあの頃がよみがえる大人たち、子どもたちには斬新に映るわらぐろ風景、老若男女が世代を越えて楽しめる農の風景です。

◎宇和れんげまつり実行委員会 TEL0894-6216408

あぐり〜ど

April 2012

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



桜のつぼみが膨らみを増すごとに、心もかるやかになっていくようです。

庭の大きな桜の木はもうすぐ満開。農事をひと休みして、我が家の桜まつりです。鯛や巻き寿司や、腕によりをかけたごちそう膳が並びます。空腹を満たせば、唄や踊りのお披露目会。おばあちゃん手づくりのおはぎや桜餅も運ばれ、宴もたけなわ。突然、桜吹雪の飛び入り参加で、宴は最高潮の盛りあがりです。

●表紙：お花見
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心を一つにする (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.136

宇和れんげまつり (西予市宇和町)

2 〈特集〉平成24年度事業方針

～改革・創造・実践～

生産基盤の維持・拡大と販売力強化で 農家所得の向上と愛媛農業の復権をめざす

8 全農愛媛県本部 平成24年度 機構図&ライン管理職等配置

9 人事異動

10 THE・ねっとわーく

15 統計BOX

1 経営体当たりの農業所得は15%増加

16 ふるさと ESSAY VOL.204

「娘と私のお弁当ライフ」 「食」の豊かさが 「心」の豊かさとなって欲しい

尾原 聖名さん

18 TOPIC NEWS

24 私たちがTACです

～JA全農えひめ 営農振興課 県域TAC 白石 雅之さん～

25 なんでもBOX

26 JAふるさと自慢Vol.136「直売所めぐり」

あかがね市「四季菜広場」～JA新居浜市～

28 READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉アスパラガス

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

※2012年1月にリニューアルしました。

◆JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

改革・創造・実践

生産基盤の維持・拡大と販売力強化で
農家所得の向上と愛媛農業の復権をめざす

新事業年度のスタートにあたって

全農愛媛県本部 県本部長 諏訪 玄

日本経済は、円高等により景気は先行き不透明、将来的な消費税率の引き上げ如何では消費者の購買心理への影響が懸念されます。一方、農畜産物の流通は、輸入の増加と国産の需要減少・価格低迷が続き、肥料・飼料原料価格の高止まりから生産意欲の減退が危惧されています。愛媛農業においても、高齢化による耕作放棄地の増大が顕著であり、平成22年の農業産出額は1,263億円と近年横ばいで推移していますが、生産意欲は減退しており、農家所得の向上に向けた対策が急務となっております。

また、東日本大震災からの復旧・復興は徐々に進むものの原発事故後の風評被害の拡大、規制値引き下げによる流通・消費のさらなる課題の発生が懸念される一方で、TPP問題では農業・地域社会への影響が甚大なことから、JAグループ挙げて参加を阻止する必要があります。

こうした中スタートする全農の平成24年度事業では、3か年計画（22～24年）の総仕上げとして、「国産農畜産物の販売力強化」を最優先に、東日本大震災からの復興支援の実施と原発事故への対応、TPP参加阻止と農業復権に重点的に取り組みます。

愛媛県本部は、3か年計画の総仕上げとして、「経営の安定」「コンプライアンスの徹底」「企画力の発揮による価値

の創造」「熱意と元気」を事業推進の4本柱におき、第3期「生産・販売・購買一体事業」の実践による生産基盤の維持・拡大と販売力強化に取り組み、効率的な事業運営による事業・組織の結集を図り、系統経済事業を強化します。

生産面では、販売と連動した生産振興策としてのコアモデルからビジネスモデルへの進展や、畜産における銘柄生産と肉質改善に取り組み、生産者手取りの安定と担い手確保を図り、生産基盤の再構築に取り組みます。

流通・販売面では、愛媛チームとしての市場販売力強化と、企画販売、契約的販売を拡大するとともに、県本部分体で実施している「えひめの食」「オレンジロード」等の消費宣伝活動を展開していきます。

購買面では、生産者・JAの予約結集による生産資材コストの低減はもとより、適正施肥防除や生産履歴記帳の徹底による安全・安心な農畜産物づくりに取り組みます。

また、不祥事の再発防止に向けて、4大リスク（債権・在庫・現金・食品表示）を重点としたコンプライアンス、リスク管理、内部統制の徹底により、安心と信頼の確立を図るとともに、TPP参加阻止に向けたJAグループの農政活動に積極的に参加し、農業の持続的発展に向け活動していきます。

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

「国産農畜産物の販売力強化」に向け、①新規市場への進出・開発、②実需者への直接販売の拡大、③買取など委託以外の多様な集荷方式の構築、等を通じて取り組みの成果を示します。また、「購買品目のシェア拡大と生産コストの低減」を実践するため、①海外山元との提携強化、②新エネルギー事業、等への投資を実施するほか、③省力資材の普及、④生産性を高める新飼養管理方式の導入、等を推進します。

経営面では、このような事業拡大の取り組みとあわせて費用の削減を進め、「経営基盤の充実・強化」の実現と経営成果の還元に努めます。

J A 全農 平成24年度事業計画

基本的考え方

3か年計画（22～24年度）の総仕上げとして「国産農畜産物の販売力強化」を最優先

東日本大震災からの復興支援の実施と原発事故の対応

支援の窓口となる専任部署を設置し、効果的な支援対応を講じます。生産基盤の回復に向けて機器類のリースなど事業別に支援策を講じる他、国・行政に対し放射性物質の規制値引き下げによる生産・流通面での混乱防止を求めます。販売面では、全農グループの安全・安心の取り組みについて消費者の理解を求めるとともに、取引先と連携し風評被害の払拭や価格の適正化に全力を傾けます。

TPPへの参加阻止と農業復権に向けた取り組み

TPPへの参加阻止に向けて、JAグループの農政・広報活動に積極的に参加します。また、地域実態をふまえて策定される集落営農ビジョンの実現を経済事業連の立場から積極的に支援します。

事業別実施具体策

米穀事業

集荷数量の減少に歯止めをかけ、組織結集による農家手取りの最大化

を図るため、播種前・収穫前契約の充実など玄米・精米の販売力強化に
取り組むとともに、委託非共計・買取
取など地域実態に応じた多様な集荷
対策を実践します。

また、食料自給率の維持・向上や
水田機能活用の観点から、主食用米
以外の生産拡大と安定流通に取り組
みます。

園芸農産事業

重点卸売市場との契約取引を拡充
するとともに、生協・量販店等の実
需者に対する直販を拡大します。と
りわけ、輸入品の使用が増加してい
る加工・業務用需要に対しては、周
年供給の実現に向け、営農部門と連
携し専用産地づくりに取り組み、契
約取引を拡大します。

また、国産大豆の契約栽培の拡大
等に取り組むとともに、国産青果物
を原料とする農産加工食品の開発を
強化します。

営農販売企画事業

輸入品が多く使用されている加
工・業務用の国産野菜への切り替え
に取り組めます。また、農研機構、
種苗メーカー等と連携し、特長品
種、新技術を活用した産地づくりを
進め、販売拡大を図ります。

TACの活動では、研修体系の確
立等により、さらなる活動の定着を

めざすとともに、生産と販売のマッチングに取り組み、JAの事業拡大につなげます。

販売面では、直販グループ会社と連携して全体の売上向上を図るとともに、リテール事業および輸出事業の拡大に取り組みます。

生産資材事業

購買力の維持・強化、担い手に対する営農支援機能の向上、事業運営の効率化に向けて、海外サプライヤーとの提携や農薬等の共同開発を拡充する他、県域を越えた広域ブロックでの取り組みを強化します。

また、JAのTAC部署と連携し、大規模経営を可能とする省力資材や生産費抑制に向けた提案を進め、担い手農家の需要を積み上げることによる結集をめざすとともに、JAの事業運営を支援するため、肥料・農薬・農機部品などの広域物流拠点の整備・供給エリアの拡大、CE総合コンサル、直売所等への新たな資材提案等に取り組みます。

畜産事業

安定的な販売と消費の拡大を実現するため、「指定産地取引」の拡大および惣菜・加工品事業の強化に取り組み、生産基盤の維持・拡充を図ります。

需給が逼迫している飼料原料にっ

いては、海外での集荷基盤を拡充する他、産地多元化を進めることにより安定供給に努めます。また、国内においては配合飼料の製造・物流コストの低減を図るとともに、新たな技術・商品の普及、高度な技術サポートにより、畜産農家の経営体質強化を支援します。

生活関連事業

800セルフSS体制の構築や「JAくらしの宅配便」の拡充などの新たな供給チャネルの定着を進める一方で、SS過疎地における老朽化SSのコンパクトセルフSSへの改造やAコープ店舗等を核とした買物支援サービスなど「新たな生活事業の展開」を促進します。

また、LPガス事業の県域小売・卸一体化による事業体制構築を進める他、Aコープ店舗等における国産農畜産物にこだわった商品の開発・販売による差別化を強化します。

成長が期待される新エネルギー分野では、一般家庭向けのエネルギーベストミックス提案、工場等におけるエネルギーコスト削減のサポート、農業用施設等への大型太陽光発電システムの普及に取り組みます。

震災復興・事業運営・経営管理

東日本大震災の被災者および被災JAに対する復旧支援を継続し、現

地の状況を踏まえ、効果的な支援対策を講じるとともに、風評被害の払拭に向けて、安全性に対する信頼回復の取り組みを進めます。

PPPへの参加を断固阻止するためJAグループの農政活動に積極的に取り組みとともに、国産農畜産物の消費拡大に向けた広報活動を強化します。また、コンプライアンス態勢の確立をめざし、食品取扱拠点ごとの表示管理を引き続き徹底します。

経営計画

取扱計画

震災の影響に伴う農畜産物の出荷減、販売価格低迷および飼料の数量減等により、園芸農産事業、畜産事業の取り扱いが減少するものの、23年産米の価格上昇や原油高による燃料価格上昇等により、米穀事業、生活関連事業の取り扱いが増加し、取扱高は4兆7,356億円とします。

収支計画

厳しい事業環境のなか、事業総利益は23年度計画より減少しますが、事業別実施具体策の実践や事業管理費の削減を通じ、事業利益は23年度計画から17億円改善し黒字に転換します。また、早期退職・転籍加算金の特別損失計上等により、当期剰余

愛媛県本部 平成24年度事業計画

最重点施策

農畜産物への理解促進とファンづくりに努め、生産者と消費者のつながり強化に取り組みます。

また、組合員のくらしに関するニーズを的確に把握した提案活動を強化し、生活組織購買事業の体制整備と流通チャネルの構築を図り、新たな生活事業の展開を進めるとともに、生活事業強化のためグループ会社と一体となった総合力の発揮に努めます。

グループ会社

JAグループの会社として生産者・JA・消費者の期待に応えるよう、生産・加工・販売・購買・物流の各分野においてグループでの事業機能の向上をめざします。

愛媛県本部グループ会社全社の経営・財務基盤を確立し、愛媛農業の振興支援に取り組みます。

事業別実施具体策

食糧部

① 県域生販一貫体制に基づく「ひめライス」ブランドの拡販と定着に向けた買取販売の実施

金は70億円とします。

剰余金処分計画

剰余金処分は、出資配当23億円(2%)、任意積立金33億円を計画します。

自己資本計画

準備金・積立金は、任意積立金33億円の増加を計画します。繰越剰余金は、23億円とします。

施設取得・処分計画

事業競争力の強化およびJA・組合員への利便性の

JA全農24年度取扱高計画

(単位:億円・%)

事業	24年度計画	23年度計画	前年比
米穀事業	7,020	6,362	110
園芸農産事業	11,890	12,041	99
畜産事業	10,252	11,007	93
営農・生産資材事業	8,321	8,318	100
生活関連事業	9,872	9,702	102
合計	47,356	47,431	100

提供に向けた米穀広域集出荷施設や農畜産物直売所の設置、今後需要が見込まれるメガソーラー発電の実証に向けた設備の取得などを計画し、施設等取得計画を175億円とします。

要員計画

事業環境に対応した要員体制を構築する観点から、25年3月末の職員数は、8,400名程度とします。

耕種事業

(食糧部・営農販売部・生産資材部)

新たな産地振興に向けた新技術・新品種導入、販売力強化、低コスト資材供給、担い手への営農指導(TAC活動)強化を図り、生産基盤の再構築に取り組みとともに、「えひめの食」企画を通じた食農教育を展開し、消費者の豊かな食生活づくりを提案する中で、愛媛農業および愛媛県産農畜産物への理解と支援を得ていきます。

畜産事業

中核農家を中心とした生産基盤の拡大と生産性向上の普及に努め、消費者に信頼される高品質生産とブランド化による産地基盤の維持拡大に取り組みとともに、JAならびに全農グループが一体となった銘柄確立と販売力強化により農家の経営安定をめざします。

生活事業

県産品を中心とした商品の新たな販売チャネルの開拓によって、国産

② 多収性新品種や高温耐性品種の導入、省力・低コスト技術の普及拡大

③ 産地ブランド米の確立や契約栽培等の企画販売による生産者手取りの向上

④ 全国一の生産量を誇る「はだか麦」の生産振興と品質向上

⑤ 米消費拡大運動の展開と米麦関連商品の開発

営農販売部

① 新品種・新技術提案による産地化、販売力強化や資材コスト低減など、JA・県域TACが一体となった第3期生産・販売・購買一体事業の展開

② オリジナル品種の産地化・ブランド化と、生産履歴記載対策やGAP手法の導入による安全・安心で信頼される産地づくり

③ 「愛媛チーム」としての県域販売体制強化による市場向け有利販売と企画販売・契約的販売の拡大

④ JAと連携強化した新規直販事業の開発・拡大による農業者所得の向上

⑤ 県本部間取引等の事業連携強化など直販事業の強化・拡充

⑥ 対面型宣伝活動の強化や「えひめの食」「オレンジデー」による情報発信など、販売事業と連動し

た効率的な消費宣伝活動の実施

畜産部

① 系統畜産生産基盤の維持拡大による伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ポーク」の生産拡大

② 全農畜産グループとの連携・強化による生産性向上と肉質改善

③ 安全・安心な伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ポーク」の認知度向上に向けた消費宣伝活動の実施

④ 肉畜集荷強化による取扱拡大と販売条件の改定・産直（産地指定等）による安定的供給体制の確立

⑤ 全農畜産グループとの連携・強化による畜産事業方式の再構築

生産資材部

① 低コスト・省力化資材・施設の開発・普及、担い手予約結集に基づく資材コストの低減と、新たな広域物流の合理化・効率化の実践を通じた低コスト供給体制の確立

② 適正施肥防除の推進と生産履歴記載の徹底による信頼される安全・安心な農産物づくり

③ バランスの取れた事業体質の構築によるJA農機事業の黒字化と、西日本農機部品センターの更なるサービス向上と効率化の徹底

④ 既存施設への施設診断・提案活動の強化と、住宅事業のJA総合事業としての再構築による情報収

集機能の強化

⑤ 「全農唯一の工場」としての優位性発揮による、安全・安心で高品質な段ボール・副資材の低コスト生産・供給体制の確立

生活部

① 地域農業の振興に寄与する「JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動」の積極的展開による愛媛県産農畜産物のファンづくり

② 国産を主原料としたエコープマーク品の理解促進と普及拡大

③ JA葬祭事業のサービス向上による組合員から期待されるメモリアル事業の構築と競争力の強化

④ 個配システム（新たな共同購入）の導入、新エネルギー関連商品の事業強化

管理部

① 4大リスク（債権・在庫・現金・食品表示）を重点としたリスク管理の徹底とコンプライアンス態勢の維持・強化

② 事業別収支改善と管理部経費の削減による県本部経営の確立と、グループ会社管理態勢の充実・強化による健全経営の確立

③ 第34回JA愛媛県大会での愛媛農業の復権具休策に基づき、「生産・販売・購買一体事業」の実践

愛媛県本部 平成24年度取扱高計画

(単位:億円・%)

事業	24年度計画	23年度計画	前年比
米穀事業	30	33	91
営農販売事業	445	434	103
畜産事業	106	103	103
生産資材事業	167	180	93
生活関連事業	144	142	101
合計	892	892	100

愛媛県本部グループ会社 売上高

(単位:百万円・%)

会社名	24年度計画	23年度計画	前年比
(株) えひめ飲料	32,006	33,843	95
JAえひめアイパックス(株)	4,066	4,073	100
JAえひめフレッシュフーズ(株)	2,824	3,185	89
(株) ひめライス	5,168	4,900	105
JAえひめエネルギー(株)	3,085	3,306	93
(株) えひめフーズ	662	630	105
JAえひめ物流(株)	7,160	7,428	96
合計	54,971	57,365	96

経営計画

取扱計画

取扱数量の減少等により、米穀事業、生産資材事業での取扱高は減少しますが、企画販売、直販事業強化等による国産農畜産物の販売力強化に取り組み、営農販売事業、畜産事業での取扱高拡大を計画します。

また、燃料価格上昇等を見込み、県本部合計事業分量は892億円とします。

収支計画

厳しい事業環境の中、事業総利益は減少しますが、第3期生産・販売・購買一体事業の実践や事業管理費の削減を通じ、事業利益は23年度計画から4,500万円改善し黒字に転換します。財務損益や事業外損益、固定資産売却等による特別損益を計上し、当期利益は5,900万円とします。

投資計画

資材製造施設・生産加工施設・店舗施設・老朽設備の更新のための施設投資、業務改革のための情報システム開発など、5億5,280万

円を計画します。

要員計画

事業環境に対応するため、管理部門要員のスリム化、事業の合理化・効率化等により、24年度末で229名とします。

機構改革と人事異動

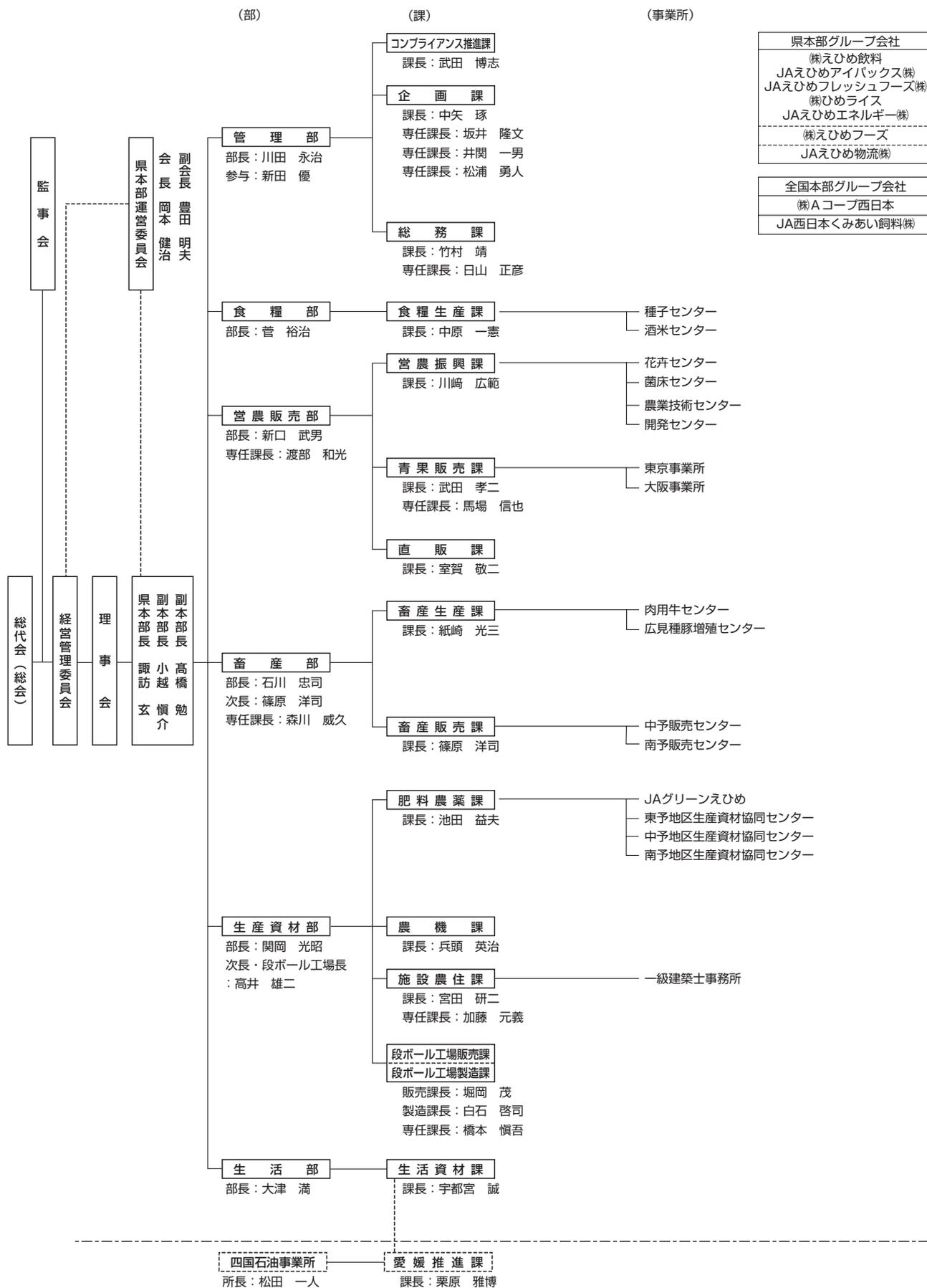
4月1日付けで平成24年度の機構改革と定期異動を実施しました。

営農販売部は、直販事業強化のため、「青果販売課」から直販事業に関する業務を分離し、「青果直販センター」を事業所から課に変更し「直販課」とします。また、生産資材部の「肥料工場」は昨年9月末で製造を中止したため機構から削除します。なお、果実の生産に関する業務は、営農振興課から青果販売課に機能・業務を移管します。今年度は、6部15課17事業所となります(機構図はP8のとおり)。

なお、人事異動は、平成24年度期首職員数237人中、異動者総数75名です(課長・審査役以上の異動はP9のとおり)。

全農愛媛県本部 2012年度（平成24年度） 機構図&ライン管理職等配置

2012年（平成24年）4月1日現在（6部15課17事業所）



人事異動（平成24年4月1日付・課長・審査役以上）

【表の見方】 職能資格呼称等は略称標記しています。
 (監) …監理役、(審) …審査役、(副審) …副審査役

氏名	新任部署	旧任部署
石川 忠司	(監) 畜産部長	(監) 食糧生産課長 種子センター所長 事務取扱
関岡 光昭	(監) 生産資材部長	(監) 肥料農薬課長 中予地区生産資材協同センター所長 事務取扱
大津 満	(監) 生活部長	(監) 生産資材部長
達川 青児	(監) 株式会社ひめライス 出向	(監) 畜産部長
井関 一男	(審) 企画課 事業改革専任課長	(審) 営農振興課 生販購一体事業担当課長
日山 正彦	(監) 総務課 共通庶務専任課長	(監) 畜産販売課 畜産販売担当課長 南予販売センター所長 事務取扱
中原 一憲	(審) 食糧生産課長 種子センター所長 事務取扱	(審) 営農振興課長 菌床センター所長・開発センター所長 事務取扱
川崎 広範	(審) 営農振興課長 菌床センター所長・開発センター所長 事務取扱	(副審) 施設農住課 課長補佐
平岡 正行	(審) 大阪事業所長	(審) 総務課 広報担当課長
室賀 敬二	(審) 直販課長	(審) 青果販売課 青果直販担当課長 青果直販センター所長 事務取扱
池田 益夫	(審) 肥料農薬課長 中予地区生産資材協同センター所長 事務取扱	(審) 南予地区生産資材協同センター所長
池内 逸雄	(審) 東予地区生産資材協同センター所長	(審) 営農振興課 TAC事業推進担当課長
上甲 順二	(審) 南予地区生産資材協同センター所長	(審) 東予地区生産資材協同センター所長
宮田 研二	(監) 施設農住課長 一級建築士事務所長 事務取扱	(監) 施設農住課長
橋本 慎吾	(審) 段ボール工場製造課 品質保証専任課長	(副審) 段ボール工場製造課 課長補佐
田中 利明	(審) えひめガスターミナル株式会社 出向	(審) JAえひめエネルギー株式会社 出向
岡田 浩人	(審) 財団法人えひめ地域政策研究センター 出向	(審) 段ボール工場販売課

THE

ねつとわーく

「4月14日は「オレンジデー」イベントやフェアでPRします

青果販売課

JA全農えひめは、愛媛発祥の4月14日「オレンジデー」を、バレンタインデー、ホ

ワイトデーに続く愛の記念日として定着させ、全国一の生産量を誇る愛媛産かんきつ類のPR、消費拡大と産地振興につなげようと、2009



年から本格的に進めています。

今年度は、「カラダに愛を。ココロに愛を。愛媛のみかん」をテーマに、11月3日みかんの日から4月14日オレンジデーまでを「愛のオレンジロード」として次々に旬を迎えるかんきつ類のPRに取り組んでいます。

ホワイトデー直前の3月11日には、松前町のショッピングセンター！エミフルMASAKIで、バレンタインデーに続き、愛媛いよかん大使らが、「オレンジデー」と愛媛産かんきつをアピールしました。

大使らは、「オレンジデーと愛媛のかんきつをよろしく」と呼びかけながら、「せとか」「デコポン」「清見」などを試食提供。かんきつ購入者150組にプレゼントした「観葉植物&デコポン」セットも喜ばれました。

「4月のイベント・販促フェア」

全農えひめでは、4月14日「オレ

ンジデー」に向けて、県内外でイベントやフェアを実施し、オレンジデーの定着と愛媛産かんきつの消費拡大を図っていきます。

【県外】

東京では「ORANGE DAY in Tokyo」と題して、チームカラーがオレンジ色の「読売巨人軍」、オレンジ色にライトアップされる「東京タワー」とタイアップしてオレンジデーを盛り上げます。

まず、オレンジデー2日前の4月12日には東京ドームでの巨人VS中日戦にて、「もうすぐオレンジデーナイト」を開催。場内のオーロラビジョンで、オレンジデーCMを放映し、4万人の観戦者にPRします。あわせて、オレンジ色を身につけた入場者先着1,000人に「清見」を、抽選で200人にかんきつ詰め合わせ「愛の引き出しセット」をプレゼントします。

翌日13日とオレンジデー当日の14日には、東京タワーで「オレンジまつり」を開催。タワーの高さ333メートルにちなみ、333人に「清見」をサンプリングするとともに、1階ロビーではオレンジデーのCMを放映し来場者にPRします。



ORANGE DAY in Tokyo

大阪では、阪急百貨店5店舗・阪神百貨店梅田本店を中心に、14日のオレンジデーに向けて「オレンジデーフェア」を開催します。売り場周辺をオレンジ色に装飾し、かんきつ購入者やカップル対象のイベントを実施し、オレンジデーをPRする予定です。

阪急百貨店では、大使による販促活動やJAえひめ南ブラッドオレンジ生産者によるPR活動も行うことになっています。

【県内】

県内では、初めての試みとして、オレンジデー当日に結婚する1組のカップルにご協力いただき「オレンジデーブライダル」を実施します。

披露宴会場に「オレンジタワー」を設置し、出席者にはかんきつ



ジュースの提供や、かんきつをふんだんに使用したウエディングケーキ、デザートは愛媛のかんきつ、出席者がお帰りの際には新郎新婦が一人ひとりにかんきつゼリーをプレゼントするなど、愛のシンボル・オレンジづくしの結婚披露宴です。

全農えひめの「オレンジジュール」と愛媛県の「みきゃん」も登場し、くじ引きやかんきつのプレゼントで披露宴を盛り上げ、新郎新婦の愛をより一層深めていただきます。なお、マスコミにリリースし、報道を通してオレンジデーをPRすることにし

ています。

「JASS-PORT 松山東」

松山市北久米町にあるJASS-PORT松山東では、オレンジデーに連動し、4月12日(木)～15日(日)の4日間、「オレンジキャンペーン」を実施します。

期間中、2,000円以上給油いただいた方に、12日・13日は先着300人、14日・15日は先着500人、合計1,600人に「清見」をプレゼントし、利用客にオレンジデーを周知します。

「県内主要量販店」

14日のオレンジデーには、エミフルM.A.S.A.K.Iやフジグラン松山などの県内主要店舗でかんきつの試食販売などを実施します。

この他、「JAタウン」でのネット販売、Aコープやコープえひめ、JAグリーンえひめなど、県内外の協力店とも連携しPRと販促を実施していきます。

全農えひめでは、かんきつ主産県・全国組織にも働きかけ、全国的な取り組みへと発展させ、「オレンジデー」「オレンジロード」の認知度・知名度を向上させるとともに、かんきつの消費拡大・産地振興につなげていくことにしています。

「伊予柑の香り」で 「買い物客にアピール」

青果販売課

JA全農えひめは、「色よし、味よし、香りよし」の伊予柑の「香り」を売

場、伊予柑の売場の脇にディフューザー(芳香拡散器)を設置し、辺りに香りを広げ買い物客の反応などを調べました。

場に広げ、買い物客の心をつかむことで、販売促進につなげられないかと、2月末から3月初旬に県内2店舗・首都圏4店舗で試験的に実施しました。

ハトマート山越店では、買い物客らが「いい香りがする」と立ち止まったり、「何の香りかな?」と果実を手にとったりしていました。

県内では、Aコープのハトマート山越店、いまばり愛彩店の2店舗に協力いただき、県内メーカーが伊予柑から抽出した精油「媛香蔵」を使

同店の担当者は、「売上げにつながるかは不明だが、売り子がいないでも客が足を止めてくれ、かんきつに目を向けてくれる効果はある」と実感。「今年は今商戦から継続してみたい」と意欲的に話しています。



▶ディフューザー(右下)から辺りに香りが広がる

全農えひめでは、「すぐに数字につながるとは思っていませんが、少しでも買い物客の気をかきつに引き付けられたら」と考えており、今後、効果を見極めながら、活用を検討することになっています。

「エーコープマーク品誕生40周年記念！」 総額1,000万円相当プレゼント

生活 資材課

エーコープマーク品は、①日常の暮らしに欠かせない、②安心・安全・健康で豊かな生活づくりに役立つ、③国産農畜産物を優先使用、④環境へ配慮をコンセプトに選定され、組合員や利用者の意見を活かしたJAグループのプライベート商品。誕生して40周年を迎えます。

JA全農では、これを記念し、エーコープマーク品の普及拡大と利用者への感謝を目的に、総額1,000万円相当をプレゼントする全国キャンペーンを実施しています。



【景品】 全国で総額1,000万円

▽Aコース

《スマッシュ賞》全農所属石川佳純選手直筆サイン入りラケット 10名

《ドライブ賞》石川佳純選手が選んだエーコープマーク品セット(5,000円相当) 800名

▽Bコース

《金星賞》農協全国商品券 10万円 50名

《白星賞》農協全国商品券 1万円 100名

【応募方法】 オープン形式

郵便ハガキにクイズの答え、景品応募コース(Aコース、Bコースいずれかを選択)、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入して投函ください。

▽クイズ①〇の中に当てはまる文字を入れてください。

「エーコープマーク品は誕生して今年で〇〇周年」

▽応募締切②2012年6月30日(土) 当日消印有効

▽応募先③〒119-0197 郵便事業(株) 晴海支店京橋分室

「エーコープマーク品誕生40周年記念！プレゼント係」宛

【抽選と発表】

応募期間終了後、厳正な抽選より当選者を決定。景品の発送をもって発表にかえます。

【利用者アンケートの実施】

同時に、インターネットを活用し、組合員・利用者を対象としてエーコープマーク品へのご意見やご要望を募集。アンケートに答えていただいた中から100名に、マーク品セット(5,000円相当)を進呈します。
<http://www.a-coop.jp>

JA女性部組織結集品目

「エーコープこめ油」推進中！

JAえひめ女性組織協議会は、

100%お米が原料

でおいしくて栄養満天の「エーコープこめ油750g」を今年度も組織結集品目として位置づけ推進運動に取り組んでいます。

◆エーコープこめ油とは

① このこめ油は、

100%国産の米糠

を原料としている植物油です。遺伝子組み換えの心配が無く、学校給食への利用も普及しています。

② 高温に強く香ばしくカラッと揚がるので、揚げ物・炒め物・スナック菓子などに最適。冷めてもベタつきが少なく、まろやかな風味が長持ちします。

③ てんぷらを揚げている油酔いしにくく快適に調理ができ、細胞の健康維持を助けるビタミンEも多く含まれています。

昨年は、皆さまのご協力により目標を大きく上回る2万260本の結集を図ることができました。今年度も9月末までの結集期間は、特別価格を設定していますので、ご利用・ご協力をお願いいたします。

品名	規格	販売価格	消費税	税込価格
えひめみかん・いよかん 混合ジュース	ケース (1ℓ×12本)	2,743	137	2,880
えひめ缶みかん・いよかん 混合ジュース	ケース (250g×30缶)	2,143	107	2,250
えひめつぶみかん・いよかん 混合ジュース	ケース (1ℓ×12本)	3,800	190	3,990
愛媛の味わい柑橘100	ケース (1ℓ×6本)	1,886	94	1,980
愛媛ポンカン50	ケース (1ℓ×8本)	1,714	86	1,800
愛媛の特煎茶	ケース (500ml×24本)	2,286	114	2,400

生活
資材課

「平成24年度えひめみかん・いよかん
混合ジュース・お茶等愛用運動展開中！」

JAグループ愛媛 ス・お茶等愛用運動」(JAグループ愛媛農畜産物消費拡大推進本部・県内各JA・JA愛媛中央会・JA全農えひめ主催)を実施しています。

この運動は、県内産

主要農畜産物の消費拡大により、地域農業の振興とともに、良質な安全な県産品の愛用を進め県民の健康増進をめざす「愛媛県産農畜産物加工品消費拡大運動方針」を受けて取り組んでいるものです。愛用運動は、8月末までの期間限定となっています(「愛媛の特煎茶」は12月末まで)。今年度は35万ケースを目標に取り組んでおりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

取扱品目

取り扱い品目は、昨年度好評につき、引き

続き「えひめみかん・いよかん混合ジュース」(1ℓビンと250g缶)、「えひめつぶみかん・いよかん混合ジュース」と「愛媛の味わい柑橘100」、「愛媛ポンカン50」「愛媛の特煎茶」、の計6品目になります。

① えひめみかん・いよかん混合ジュース

愛媛の元気な太陽を浴びて育った温州みかん和伊予柑などの柑橘果汁をブレンドした飲みやすく体にやさしい果汁100%ジュースです。1ℓビンと250g缶があります。

② えひめつぶみかん・いよかん混合ジュース

愛媛産の温州みかん和伊予柑の果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた、普通のジュースでは味わえない飲む「果物感覚」の果実分100%ジュースです。1ℓビン。

③ 愛媛の味わい柑橘100

愛媛県産の4種類の柑橘(清見・まりひめ・ポンカン・不知火)を贅沢にブレンドした爽やかな味わいのジュースです。1ℓペットボトル。

④ 愛媛ポンカン50

甘みが強く酸味がやわらかい豊かな香りの愛媛産ポンカン果汁を使用。爽やかな美味しさが特徴の飲料

(果汁50%)です。1ℓペットボトル。

⑤ 愛媛の特煎茶

愛媛県産茶葉を100%使用し、心地よい苦味とさっぱりした後味の緑茶です。食後やスポーツの後、焼酎等の緑茶割りとしてご利用いただけます。500mlペットボトル。

※「えひめみかん・いよかん混合ジュース(ビン)」は、諸資材の高騰により一本当たり10円値上げさせていただきますのでご理解願います。また、「つぶジュース」はビンを変更します。なお、ビン入り2種は、紙ラベルからシュリンクラベルに変更。廃棄時の処理が簡単になります。

毎年県産品として県内外への贈答品として大変好評であり、今年も贈答需要に対応できるよう宅配も受けつけています。詳しくは最寄りのJAにお問い合わせください。



「TPP断固阻止へ」 全国から1、2000人が集会

JA
グループ

J A全中は、3月13日、東京で「TPP（環太平洋連携協定）交渉参加断固阻止全国集会」を開きました。全国から1、

2000人が集まり、断固反対の立場をあらためて示し、政府と各政党に対して、交渉参加国との事前協議に臨む政府の統一方針が確立されるまで同協議を中断するよう要請。情報開示や国民的議論を徹底することなども求めました。

大会では、全国農協青年組織協議会の牟田会長が「東日本大震災で国内はTPPどころではない。協同の力でTPP交渉参加を断固阻止しよう」と呼びかけ、頑張りう三唱を行いました。

愛媛県からもJAグループ代表者が参加。地域社会の崩壊を招きかねないという危機感や、情報開示や国民的議論が進まないことに対する苛立ち、参加に前のめりの政府に対する憤りを、全国から集まった仲間とともにぶつけました。

愛媛県内の農林漁業団体や県生活協同組合連合会など10団体は、「食とくらしと地域を守るネットワーク愛媛」を設立し、TPP交渉参加阻止の運動を強化しています。

J A愛媛中央会のホームページ内に同組織特設サイトを設置。TPPをめぐる情勢と新たな動きを「ネットワークニュース」として発信し、対外向け広報活動を強化することにしており、J A全農えひめホームページにもリンク設定していますので、ご覧くださいませ。



▶愛媛県からの参加者（農業新聞 提供）

「競争原理から協同の絆へ」 シンポジウム「甦れ！農パート13」

JA
グループ

J A愛媛中央会と愛媛新聞社などは、3月10日、松山市でシンポジウム「甦れ！農パート13」を開きました。

消費者や生産者、高校生、JA役員など260人が参加したシンポジウムでは、東日本大震災から1年になることと、今年が「2012国際協同組合年」であることを受け、協同組合の原点である「共助」の大切さを見つめ直そうと、「大震災が

問う！競争原理から協同の絆へ」をテーマに、講演やパネル討議を通して、協同組合と地域の将来について理解を深めました。

基調講演では福井県立大経済学部
の北川太一教授が、TPP問題の背景にある市場原理主義の課題や協同組合の意義を説明。「農産物や食料など命に関わるものに市場原理主義はなじまない」と指摘。「地域社会と共存・共栄し、農と食に根ざした地域協同組合を目指して欲しい」と呼びかけました。

パネル討議では、愛媛大学社会連携推進機構の村田教授をコーディネーターに、生協・農協・行政関係者が出席。「協同組合の良さは地域に根付いていること。助け合いの力は社会を変革する力になる」「女性組合員の活動は大きな力を発揮する」などの意見が出ました。

会場には、協同組合組織が取り組んだ震災支援活動や国際協同組合年に関するパネルも展示しました。

※詳細は3月24日付の愛媛新聞に掲載されました。



2012国際協同組合年実行委員会認定事業 シンポジウム「甦れ！農」パート13 「大震災が問う！競争原理から協同の絆へ」

統計BOX

1 経営体当たりの農業所得は15%増加(愛媛県) —平成22年個別経営の営農類型別経営統計(果樹作経営)調査結果の概要から—

先 月、愛媛県の農業産出額調査結果から果樹部門が全体の4割を占めていることをご紹介しました。そこで今月は、愛媛県の果樹作経営における農業経営収支について見ていきたいと思います。

温州みかんの価格上昇により農業所得が増加

愛媛県における果樹作経営を行っている販売農家1経営体当たりの農業粗収益は462万円で、前年に比べて60万円(15%)増加しました。そのうち、果樹収入は388万円で、前年に比べて36万円(10%)増加しました。これは、温州みかんが裏年に当たり生産量が減少したものの、価格が上昇したことにより収入が増加したことに加えて、その他かんきつの収入も増加したためです。

一方、農業経営費は301万円で、前年に比べて2万円(1%)減少しました。これは、肥料価格の低下や農機具と農用建物の減価償却費が減少したためです。この結果、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得

は161万円で、前年に比べて62万円(63%)増加しました(図1)。農業経営費のうち、種苗・苗木がトップ(1経営体当たり)

愛媛県の農業経営費の構成割合は、種苗・苗木(成園の減価償却費を含む)の占める割合が18%で最も多く、次いで、肥料11%、農業薬剤10%、賃借料、光熱動力が9%となっており、これら5項目で全体の半分以上を占めています(図2)。

図1 農業経営収支の推移(1経営体当たり)

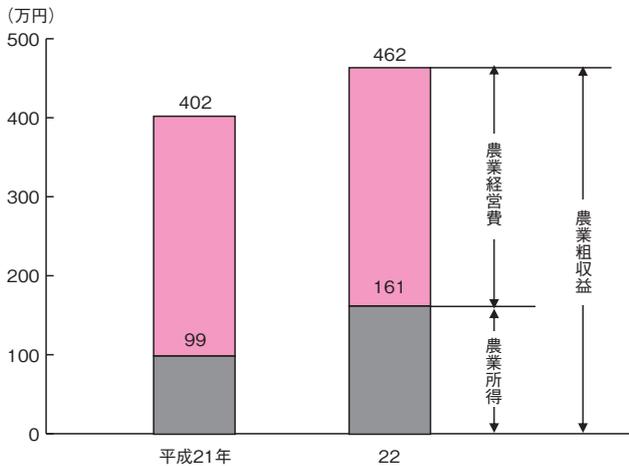
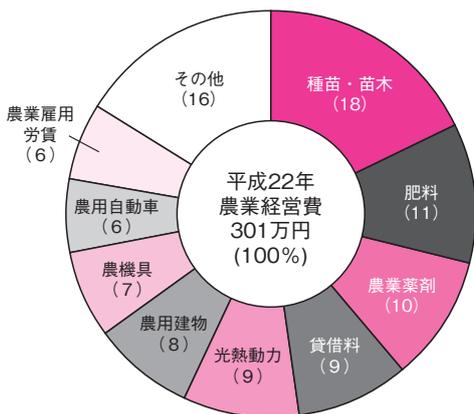


図2 農業経営費の構成割合(1経営体当たり)



経営安定に向け、優良品目・品種への転換の加速化と安定供給体制の確立のための取り組みを進めていく必要があります。また、加工用の需要が増えていることから、加工・業務用果実への供給体制を構築していくことが必要です。

このため、農林水産省では、産地ぐるみで改植等を実施した際の未収益期間に対する支援や産地の構造改革、果実の需給安定及び加工流通対策として、「果実・茶支援対策事業」を行っております。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ



「娘と私のお弁当ライフ」

「食」の豊かさが

「心」の豊かさとなっていて欲しい

娘は現在幼稚園に通っており、幼稚園が大好きなので、土・日曜日になると暴動が起きます。(笑)

「なんで土曜日が来てしまうんだ〜。幼稚園が休みになってしまう〜」と言う感じです。もちろん、お友達も先生も大好き！幼稚園の空間も行事も楽しい！

その中で、娘の日常の楽しみは「お弁当」です。5〜6個あるお弁当箱を毎日変えて、そのお弁当箱の色や形にあったお弁当を作っています。夫のお弁当と同時に作っているのです、薄味や食べ易く小さめに切ったりこそしておりますが、同じようなお弁当です。

子供のお弁当なので、「キャラ弁とかにしますか？」と聴かれることもあります。私もウサギや、猫の形にお結びを作ったり、ハンバーグを作ったりしてやらないといけないのかなあと、幼稚園に通う前は思っていました。でも、「いただきます」の意味を話して

から、娘には少し変化が見られました。

「動物さんだけでなく、畑で採れたお野菜さんにもみんな命があるんだよ。命ってこうしてお日様が眩しいとか風が心地いいとか感じられることだよ。元気に遊んだり、笑えるのはこうした動物さんやお野菜さんの命ももらってるからなんだよ。だから『ありがとう』の気持ちを込めて『いただきます』って食べる前に言おうね」。

そんなことを話した後、娘は動物の形をしたパンやクッキーをいただいても、「可哀想で食べられない」というようになりました。食べるの大好き。なんでも食べる子ですが、私の言ったことをちゃんと判ってくれて、「食べる」って行為を真摯に受け止めてくれて、そしてそれでも食べることが大好きでいてくれる。親としてはこの上ない幸せです。幼稚園などで、鳥の形のクッキーなど出されたりすると、「ごめんね。でも、風邪引かないで幼稚園

尾原 聖名

MINA OHARA

1973年6月5日生まれ、松山市出身。松山東雲女子大学人文学部人間文化学科卒業後OL、自然食品店勤務を経て、平成10年(1998)「おべんとう作家」としてデビュー。平成13年(2001)フリーで活動開始。フルオーダーの弁当製作、イベントプロデュース、離乳食講座、カラダメンテナンス、料理教室、スタイリング、トークイベントなど。弁当に限定せず、食を媒介として心を通わせる「食通(食のつながり)活動を展開する。フリー10年の節目を迎え、「夢は見るものではない。叶えるもの」と、先の10年を見据え個性的「食通」に拍車がかかる。好物は桃とバームクーヘン、手ぬぐいコレクター。

縁があり落語に親しみ、自ら「席亭」(寄席の主催者)として落語会『菊花寄席』(菊：女性初の真打ち落語家古今亭菊千代師匠花：人間国宝五代目柳家小さん師匠の孫・柳家花緑師匠)の二人会を10年務めた。日本文化が大好きで茶道、華道ともに許状を受けている。

URL / <http://www.obento-sakka.com/>



▶夫と娘のお弁当。わっぱのお弁当箱なら、冷めてもご飯がなぜか美味し
い。木の香りと程よい保湿のせいだ
しょうか？少し高価ですがお弁当箱
でもお弁当作りの士気高まります！



▲娘と私。マイ包丁とまな板で毎日お手伝いしてくれています

休まないからね」と心の中で言っ
てたよ」と報告してくれます。
今は、娘のお手伝いでハートや星型
に野菜をくり抜いてくれています。だ
んだんと型抜きに動物も加えていけ
ば、ウサギの形でも可愛い！と思っ
てパクッと何の気なしに食べるよう
になるはずだし、そこに罪悪感を抱か
ないようにはやりたいと思います。

また幼稚園に通い始めてしばらくの

間まで「お弁当」を「プレゼント」と
思っていました。自分のために母親が
作ってくれたもの。可愛い入れ物に、
可愛い袋に入れてある。誕生日に誰か
からもらえるあれと同じだと。なので、
幼稚園の準備には「タオルとお便りば
さみとプレゼント」と言いながら靴
に入れていた頃をとて懐かしく思い
出します。言葉の覚え間違い、順番が
逆（例・りんごを、りんご、という）
なども話し始めた頃のほほえましくも

面白い話なのですが、お弁当をプレゼ
ントと思えるっていうのは気持ちがあ
わっているっていうこと。おべんとう
作家としても母としても誇れる出来事
でした。

最近、増々お弁当ライフを楽しん
でいる娘です。幼稚園ではお弁当を温
めてくれるサービスをしてくれてます
が、そうになると、フレッシュな野菜や
果物が入れられないし、私自身は、冷
めても美味しい、お弁当作りを心がけ
ているので、温めてもらっていません。
娘も「いつも温かくなくていい」と言
います。サンドウィッチがいいとリク
エストもしてくるし、自分でも判って
いるみたいです。でも「いつも温かく
なくていい」の、いつもには深い意
味があります。「時には温かいものが
いい」と思うらしく、そういう時は「明
日のお弁当はお好み焼きにしてね」と
言います。なるほど料理の事、判っ
てるなあ」と感心です。
なかなかハードルの高いリクエスト
も楽しみながら、限りなく応えています。
そして、空っぽになったお弁当と、私
のことを家庭でも「母」と呼ぶ娘の「母
は料理が上手だね」の感涙もの言
葉。娘が帰ってくるのが待ち遠しい
ウィークデイです。

●えひめ野菜フェア

生産者らが旬の青果物を試食販促・アンケートも

JA全農えひめとJA愛媛野菜生産者組織協議会は、「えひめ地産地消の日（第4土・日）」にあわせ、2月24日～26日の3日間、フジグラン松山・重信、エミフルMASAKIの3店舗で「えひめ野菜フェア」を開催。県内産地JAの生産者らが店頭で立ち、「えひめの食レシピ」を参考にした試食を提供しながら、県産野菜の美味しさをアピールしました。

26日には3店舗でモニターレディが愛媛野菜アンケートを実施。購入には「鮮度（53%）」「産地（17%）」「価格（12%）」「安全性（12%）」を重視。産地は「地元産（70%）」「国産（20%）」を選ぶといった結果となりました。また、調理方法が参考になるとの意見もありました。

全農えひめでは、アンケート結果を参考に、消費拡大に取り組むことにしています。



▲24日、フジグラン松山ではJAおちいまばり「ミニトマトのスパ」を試食提供しながら販促



▲エミフルでは、25日に、JA松山市レタス生産者らが、レタス巻きサラダを試食提供



▲24日、フジグラン重信で「ブロッコリーのマリネ」を試食提供しながら販促するJAえひめ中央生産者ら



▲25日のフジグラン重信では、JAえひめ中央東温地区イチゴ生産者らが販促しました



▲24日、エミフルではJA松山市「白ねぎのマリネ」で美味しさをアピール



▲26日には、フジグラン重信でJA周桑冬春キュウリ生産者らが、漬けたキュウリを持参しPR

●「えひめ米品質向上推進大会」「はだか麦25年連続生産量日本一記念大会」 一層の良質米&はだか麦の生産振興に取り組もう

愛媛県米麦振興協会（会長＝諏訪玄全農愛媛県本部長）は、3月8日、県産米麦の品質と生産者手取りの向上を図ろうと「えひめ米品質向上推進大会」ならびに「はだか麦25年連続生産量日本一記念大会」を開催。売れる米づくりに向け需要に対応した品種の作付けを推進することや、生産量日本一のはだか麦の更なる生産振興に取り組むことなどを確認しました。

大会には、生産者・JA・行政の関係者ら約100人が出席。2012年産米の作付計画や、導入実証している水稻高温耐性品種の考え方を発表。「良食味米生産のための土づくり」と題した記念講演ではケイ酸の重要性を強調しました。また、「愛媛県産はだか麦への想い」と題して実需者が講演し、「はだか麦には大麦にはない独特の風味がある。根強い人気があるので今後も期待している」と高品質生産を呼びかけました。

「2011年度愛媛県良質米・麦作・大豆共励会」表彰式もあり、良質米「農家の部」で三好敬一さん（JAひがしうわ）、「集団の部」で太尺寺営農集団（JA松山市・奥村則雄代表）が最優秀賞（県知事賞）に、麦作「農家の部」は永安武久さん（JAえひめ中央）、大豆「農家の部」で田中智さん（JAひがしうわ）が最優秀賞に

輝きました。なお、永安さんは、今年度の全国麦作共励会で全国米麦改良協会会長賞を受賞しています。

また、2011年度愛媛県農産園芸功労知事表彰（水田農業部門）も行われました。

その他の受賞者は次の皆さんです（敬称略・カッコはJA名・市町名）。

◆良質米共励会【農家の部「コシヒカリ・あきたこまち部門」】▽優秀賞＝渡部徹（松山市）、清家純一（ひがしうわ）、▽優良賞＝井上徹郎（松山市）、【農家の部「ヒノヒカリ・愛のゆめ部門」】▽優秀賞＝好永英則（松山市）、相原啓司（同）▽優良賞＝大川泰範（同）、郷田喜規（同）、越智三英（ひがしうわ）【集団の部】▽優秀賞＝エコラブ蔵川（愛媛たいき・富永吉長代表）

◆麦作共励会【農家の部】▽優秀賞＝(有)松前園芸（松山市）、工藤雅志（周桑）【集団の部】▽優秀賞＝農事組合法人高知（同・越智利弘代表）

◆大豆共励会【集団の部】▽優秀賞＝農事組合法人加茂ファーム（出水慎代表）

◆愛媛県農産園芸功労知事表彰【農業者】豊田年秋（松前町）、青森猛（東温市）、松本勲（西予市）【団体】(有)こんばら（今治市・菅恵志代表）



▲共励会入賞者の皆さん

●JA愛媛果樹技術指導員会 果樹技術研修会

着果確保と高品質生産で所得向上をめざそう

JA愛媛果樹技術指導員会は、3月9日、(株)えひめ飲料で果樹技術研修会を開きました。裏年が見込まれる今年産の温州みかん生産対策として、新梢発生の多い樹の受光体勢の確保、蕾・花周辺部の芽かきなどで着花・結実を向上させることや、落葉果樹では病虫害防除・摘蕾の徹底による安定・大玉果生産に取り組むことなどを確認しました。

研修会には、県内JAの果樹技術員のほか県・果樹研究センター関係者など約60人が出席。県鳥獣害対策係から鳥獣害の状況と対策についての講演では、「集落ぐるみで環境づくりをすすめよう」と呼びかけました。

なお、JA愛媛果樹技術指導員会名誉会長表彰も行われ、西川吾一さん（JAにしうわ・左）、森山靖良さん（JAえひめ中央・右）の二人が表彰されました。



●食糧栽培技術研修会

水稻高温耐性品種「にこまる」の認識を深める

JA愛媛食糧指導員会と全農愛媛県本部は、2月17日、松山市で食糧栽培技術研修会を開き、高温耐性で食味も優れている水稻「にこまる」について認識を深めました。

研修会にはJAや県関係者64人が参加。県内で水稻作付面積の約3割を占める「ヒノヒカリ」は、登熟期の高温で品質が低下し生産技術だけでは対応が難しいことから、2011年度は、11JA約1.2haで「にこまる」など水稻高温耐性品種を実証し、「にこまる」は、「ヒノヒカリ」より収量・品質は優れており、高温障害による

白未熟粒の割合が低く外観格付も高い。また、アミロース・タンパクも低く、官能試験でも優れていることなどが報告されました。

また、品種を育成した（独）農研機構・九州沖縄農業研究センターの坂井真サブチーム長が「地球温暖化に対応した新しいお米『にこまる』」と題して講演。「平坦部でのヒノヒカリの品質低下に対応できて収量性も高い。食味コンテストでも上位に入賞するなど、九州・西日本での作付も拡大中で、認知度向上も期待できる」と話しました。

指導員会の竹岡壽男会長は「12年産は100ha分の種子の注文があったと聞いている。学んだことを現場で生かせるよう技術・技能の向上に努めて欲しい」と呼びかけました。

全農愛媛県本部では、消費者は「にこまる」の認知度が低く、認知されるには時間が必要であり、ただちに「にこまる」単体の精米商品の販売は難しいことから、12年産は、引き続き実証圃を設置するとともに、販売面の検証も行うことにしています。



●「ふれ愛・媛ポーク」キャンペーン抽選会 前年比150%の応募者から120人を選ぶ

JA全農えひめは、3月16日、「ふれ愛・媛ポーク」2012プレミアムキャンペーンの抽選会を行い、応募数3,498通の中から、諏訪玄県本部長らが、携帯ゲーム機「NINTENDO 3DS」20人など当選者120人を選びました。

キャンペーンは、県内の消費者を対象に、「ふれ愛・媛ポーク」ブランドの浸透と消費拡大、地産地消の推進をめざし、1月14日から2月29日までの期間、商品に付いているシールを貼って応募する方式で実施したもの。期間中は、店頭ポスターや新聞広告等を通じてブランドとキャンペーン内容をアピール。取引量は前年比110%、応募数は同150%と大きく上回りました。

応募ハガキには、「『ふれ愛・媛ポーク』マークがついていると安心して購入できます」「柔らかくて甘い媛ポークが大好きです」などのコ

メントが添えられていました。

全農えひめでは、「ふれ愛・媛ポーク」が1月に「愛」あるブランド製品として認定されたこともあり、一層のブランド浸透と消費拡大・販売強化に努め、農家の所得向上に貢献していくことにしています。



▲諏訪県本部長（左）らが120人を抽選

●ひめライス 無洗米キャンペーン抽選会 昨年を超える7,625通から当選者600人を選ぶ

㈱ひめライスは、3月12日、松前町の本社で、ひめライス無洗米「あらうまい!で家族のしあわせ応援!」キャンペーンの抽選会を行い、山本社長らが、「GOPAN」「ルンバ」など家族を幸せにしてくれるグッズやWチャンス賞の当選者600人を選びました。

同キャンペーンは、県内の消費者を対象に、県産米の消費拡大と無洗米の浸透、販売店の販促支援を目的に、昨年の12月19日から2月29日までの間、店頭でのポスター・リーフレットやテレビCM、新聞広告等を通じて「ひめライス」ブランドと無洗米「あらうまい!」をアピール。量販店での販売が前年比113%と好調で、全体で同103%と伸張しました。

昨年を超える7,625通の応募ハガキには「タピオカを使った製造方法が分かって安全・安心だと感じた」「手間や水を節約できる」といった

意見が寄せられました。

同社では、今年2月に無洗米の製造設備を充実させました。今後とも、利便性・環境面・節約面に優れているエコな商品であることをアピールし、無洗米の定着・拡大を図っていくことにしています。



▲山本社長（右）らが600人を選びました

●全農愛媛県本部・コープえひめ 提携促進協議会 研修会や交流会を活性化し提携を強化

JA全農えひめとコープえひめは、3月6日、「全農愛媛県本部・コープえひめ提携促進協議会」を開催。交流活動や研修会の増加、日常の協議・商談活動を活性化させ、互いの組織の組合員の期待に応えられるよう連携を強化していくことを確認しました。

協議会は、1994年に締結した「協同組合間提携強化に関する協定」に基づき、毎年、開催しており、今回が17回目。会議には、両組織の幹部と取引のあるグループ会社の社長らが出席し、これまでの取り組みやコープえひめからの提案事項も踏まえて、全農えひめグループから事業別検討課題を提案。今後の取り組みについて協議しました。

コープえひめからは、「担当者レベルの協議や商談を活発化させ、商品企画や開発など連携して取り組んでいきたい。産地と職員・利用者

の研修や交流を積極的に行い、農家・農業・商品の理解促進に努めてもらいたい」などといった要望がありました。

なお、全農えひめグループからコープえひめへの2012年度供給高は、約14億円を計画しています。



●いよっくら「えひめ県産お肉祭」 お肉は「いよっくら」！即売セリ市や和牛焼肉丼が人気

JAえひめアイパックス(株)ファーマーズマーケット「いよっくら」は、消費が低迷する牛肉などの消費拡大を図ろうと、2月18日・19日の2日間、「えひめ県産お肉祭」を開催。牛肉・豚肉の即売セリ市や、和牛焼肉丼が人気を集め、大勢の来店者で賑わいました。

2日間は、「お肉購入のカード会員ポイント」を10倍に設定。指定農場・関平畜産の「伊予牛『絹の味』」、直営農場の「せと風ポーク」、「媛っこ地鶏」などの試食も行い消費拡大を図りました。

即売セリ市は、表示価格の半額程度から100円単位でセリ上げ、競り落とした購入者は「楽しんで、しかも安価で購入できてよかった」と喜んでいました。また、和牛とタマネギを炒め、豪快に乗せた「焼肉丼」は一杯200円で提供され、長い列ができるほど大盛況でした。

松田修店長は、「JAグループ食肉会社の直売所として『お肉は『いよっくら』』と定着しつつある。今後も県産肉をアピールし、農畜産物の地産地消に努めていきたい」と話しています。



▲松田店長(右)の進行で牛肉・豚肉をセリで即売

●JAグリーンえひめ「フレッシュ市」 直売所で生産者がイチゴを試食販促しアピール

JAグリーンえひめ「フレッシュ市」は、3月11日、消費者にもっと地元のイチゴの美味しさを知ってもらい利用拡大を図ろうと、生産者が売場で試食販促を行いました。

当日は早朝からイチゴを買い求める利用者で賑わい、普段の休日の2倍近い500パックを販売することができました。

同市には25名がイチゴを出荷していますが、生産者自らが売場に立って試食販促したのは初めて。今後も「地産地消」をメインに利用者との“ふれあい”を通じて利用促進・活性化を図っていくことにしています。



▲早朝から利用者が詰め掛けました

●第6回JAグループ国産農畜産物商談会&ふるさとの食フェスティバルに出展 オリジナル柑橘や旬の柑橘をアピールしました

JA全農えひめは、3月6日・7日に東京で開かれたJAグループ国産農畜産物商談会に出展し、3月が旬の全農えひめ開発のオリジナル柑橘「ひめのつき」「エクリーク65」や県オリジナルの「甘平」「媛小春」などを紹介しました。訪れた小売店のバイヤーらは、試食で味を確認し、生産量や販売時期などを熱心に質問していました。

「ひめのつき（「アンコール」×「日向夏」）」は「日向夏」の爽やかさと「アンコール」の甘味が融合した新しい味をPR。果肉が赤いポンカン「エクリーク65（「モロ」+「太田ポンカン」

のキメラ育種）」は、一般のブラッドオレンジよりも機能性成分のアントシアニンが多く、手で皮がむけそのまま食べられるといったセールスポイントをアピールしました。

また、3月10日・11日には、東京のNHK放送センター前で開かれた「ふるさとの食にっぽんの食全国フェスティバル」にも(株)えひめ飲料とともに出展。JAにしうわの生産者らも参加いただき、「清見」「弥生紅」「せとか」などといった柑橘を約28,000人の来場者に試食提供しながら販売しました。



▲「エクリーク65」を手に取り質問する来場者



▲試食をすすめながら販促したJAにしうわ生産者ら

!! TAC® 私たちが TAC です

JA 全農えひめ
営農振興課
県域TAC

白石 雅之さん



相互研修でレベルを向上

今回は、愛媛県TAC事務局から、先進地研修とJAうま取組報告会の実施内容を紹介します。

◆先進地研修

JA・県域TACは、業務管理手法と活動レベルの向上を図ろうと、2月14日から16日まで、2011TACパワーアップ大会



で全国表彰を受けた静岡県JAとぴあ浜松で先進地研修を行いました。

同JAは組合員7万人、TAC 49人が支所に配置され営農+経済渉外を行うとともに、本所に3名の専門指導員を配置。生産履歴記帳に力を入れており、独自の土壌分析センターで残留農薬検査を実施するなど、安全・安心を徹底しています。

また、訪問農家別にファイルを作成するなど、細やかな担い手対応をしていることや、JAの資料を知ってもらう活動に重点をおいている点、消費者が何を求めているかを生産者につなぐことを目標にしていることなどが素晴らしいと感じました。

障がい者施設に作業を委託し地域社会に貢献している農業法人・京丸園の視察では、担当TACが経営に関する数値を経営者に示す

などして、信頼関係を構築していることが印象的でした。

その他、静岡県内8JAのTACによる経済渉外業務ロールプレ大会にも参加。話法や教育体制が参考になりました。

◆JAうま取組報告会

「アグリアドバイザー」と称して2008年からTAC活動に取り組んでいるJAうまは、2月29日、4年間におよぶ取り組みの報告会を開催。JA役員をはじめ営農・経済関係職員が見守る中、6人のTACがそれぞれ取り組みを報告しました。

報告の概要は、次のとおりです。

石井成幸さん（松柏・三島・米麦）
JAうま全域の米生産状況を踏まえ、課題のライスセンターの利用時期集中を鑑み、解消に向け水稲新品種導入に取り組んだ。

森繁伸さん（土居中央・長津・野菜）
野菜生産を伸ばすため、高冷地での産直市向け野菜生産から取り組み、生産者数と面積を伸ばした。

尾藤昭三さん（川之江・果樹）
温州みかんから愛媛の中晩柑新品種の「紅まどんな」「甘平」の導入に取り組んだ。

岡本悠さん（全域・畜産）

飼料提案から種付けの向上など養豚生産性向上に取り組み、肉豚は出荷額を倍増させた。



鈴木哲也さん（寒川・豊岡・花卉）
アレンジに使用する「ピットスポラム」「ヒムロ杉」など新たな

花き類の取り組みを実施した。

合田仁地域担当課長（川下・関川・里芋・山の芋）

里芋「伊予美人」の新技術の普及・新資材の応用、生販マッチングにより作付拡大と共販率の向上を図った。

JAうまでは、4年間のTAC活動が、地域・担い手に浸透してきました。異動でTAC業務から離れる担当者もいますが、全体として活動レベルが下がらないよう、一層の活動に励んでいくことにしています。

なんでもBOX

●2011年度 愛媛県農協営農生活指導員会議 研究大会 地域農業の振興に向けて研賛を深める

2月13日、「2011年度愛媛県農協営農生活指導員会議研究大会」が開かれました。県内のJA営農・生活指導員ら約160人が参加。研究・体験発表などを通じて研賛を深めました。

研究体験発表で最優秀賞を受賞したJAえひめ南農産販売課の善家正常さんは、春ブロッコリーの産地確立に向けた取り組みを発表。数年かけて適合品種や栽培方法の研究に取り組み、出荷数量や販売金額を伸ばし、生産者所得につながっていることなどが評価されました。

記念講演では、高知県JA四万十の武政盛博組合長が、自らのJA営農指導員としての経験を交えながら、「自分を信じ、新たな発想とチャレンジ精神で事業化を進め、農業振興や地域貢献につなげよう」と呼びかけました。

その他の受賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJA名）です。

◆優秀賞=中島由美子（えひめ中央）、佐野将大（同）、西川達也（愛媛たいき）

◆努力賞=岡本勇人（おちいまばり）、坂本啓（愛媛たいき）、森敬造（同）、坂本和美（えひめ南）



▲最優秀賞を受賞した善家正常さん

日本農業賞「食の架け橋賞」大賞に「さいさいきて屋」

第41回日本農業賞（主催：JA全中・NHK）特別部門の「食の架け橋賞」の大賞に、JAおちいまばり「さいさいきて屋・直売所運営協議会」が選ばれ、3月10日、東京のNHKホールで表彰式が行われました。

同賞は、都市と農村を結ぶ架け橋となって農業の活性化に貢献している個人や団体を表彰するもので、今回は全国から40件の応募がありました。大賞に輝いた同協議会は、島嶼部からもトラック便で集荷している姿勢や栽培講習会などで丁寧な指導しながら農業所得の向上につなげている点、幼稚園への給食提供や農業体験などにより消費者との交流活動を積極的に展開し、地域を巻き込んだ活動となっている点などが高く評価されました。

なお、「さいさいきて屋」の取り組みは、2月24日（金）のNHK番組「四国羅針盤」で紹介されました。





インフォメーション

あかがね市「四季菜広場」

- Tel/0897-31-0181
- 営/8:30～16:00
- 休/無休（年末年始、盆、地方祭は除く）
- 住/新居浜市田所町3-63 JA新居浜市本館北側
- URL/http://www.ja-niihamashi.or.jp/

あかがね市「四季菜広場」～JA新居浜市～

山菜からキレイな葉モノまで。春が匂う直売所へようこそ



▲駐車スペースは約40台

地

元からの 要望に込めて

農産物直売所「あかがね市」は平成10年、新居浜市内のスーパーからの要望を受けてインショップとしてスタートしました。手ごたえとともに平成15年、「あかがね市『四季菜広場』」をJA新居浜市本所の倉庫片隅に開設。平成21年8月に冷暖房完備、鮮魚コーナーを設け、売り場面積300㎡にリニューアルし、現在は出荷会員約300人で、年間約1億円を売り上げる直売所です。

交通至便な市内中心部で地元の方の利用頻度も高い直売所ですが、新居浜市は人口も多いため消費地だけに、時期や天候によっては出荷物不足が悩みの種という一面も。後継者や新規参入者に望みを込め、なごところ。他、「あかがね市」は市内のスーパー4店にインショップを設けています。



村尾 修さん
(あかがね市「四季菜広場」 店長)

「あかがね市には『今日もおいしい、新居浜産』がたくさんそろっています。地産地消で生産者と消費者をつなげ、地域農業の活性化にもつなげていきます」

イベントカレンダー

- 3月 春まつり
- 5月12日 イチゴまつり
- 7月中旬 夏まつり
- 10月上旬 秋の味覚祭
- 12月上旬 冬の感謝祭

声

「当日の食材を朝一番で仕入れています」

創業25年のレストラン「アダムとイブ」の大窪シェフは、食材にこだわり、東予地方の各直売所、高知へも買い出しに出かける、あくなき探究心の持ち主です。車で数分のあかがね市「四季菜広場」は週3

回以上利用しています。「見極めて安心・納得の品を選びたいですから、『四季菜広場』には形はふぞろいでも味がよく、誰の何がいか、頭に入っています。当日仕込みに間に合う朝早いオープンで、サラダの食材もサニーレタス、グリーンアスパラ、ルッコラ、イタリアンパセリと、品数多く、パリッと新鮮。大量にほしい時は商品を取りまとめしてくれるなど、小回りも利き助かっています」。

「アダムとイブ」ではカレー、オムライス、パスタなどの単品からワイン、コース料理まで、幅広いシェフの手仕事料理が味わえます。



▲本日の調達は玉ねぎとホウレンソウ。小鯛のフライ、玉ねぎと豚肉の炒め物、ホウレンソウのお浸し、だし巻卵など、品数豊富な日替わり定食950円



インフォメーション

ADAM & EVE (アダムとイブ)

- Tel/0897-33-5959
- 営/11:00～14:30・17:30～21:00
(オーダーストップは20:30)
- 休/不定休
- 住/新居浜市菊本町2-1-48

職人気質の野菜づくり

出荷会員の方は専業農家や大規模農家が少なく、出荷物は自家野菜、つまり生産者自らが食べる食材の延長線上にありますから、一

層の安心・安全の意識の高い商品といえます。たとえば、味に定評がありすぐに売り切れるミニトマト、小さな虫食い葉が誇らしい甘みたっぷりホウレンソウ、ひと味違うやわらか・おいしいブロッコリーなど。季節のめぐりに合わせてお客様の舌をうならせる、小規模ゆえに手塩にかけた、こだわり作物が並んでいます。

J A新居浜市のイチゴ栽培歴は40年以上を誇ります。5月12日(土)は、あまおとめや紅ほっぺをそろえた「イチゴまつり」を開催します。空くじなしの抽選会、卵や綿菓子プレゼント、餅つきなどのイベントも楽しみにしてください。



▲横一列にずらりとコンテナが並ぶ店内



▲「イチゴまつり」は甘い、大きい、真っ赤なイチゴが盛りだくさん



こ～んなに大きな大根も！
100円です

岡部 一世さん
(あかがね市「四季菜広場」スタッフ)

「椎茸、トマト、白芋、ホウレンソウ、アスパラガス…。新居浜産は意外と(笑)、野菜の種類も多いんですよ！」



▲こんな元気な生産者がつくっています！壁には生産者を顔写真で紹介している



▲温暖化に強い品種「にこまる」も並ぶ米、各種あり



▲周年出荷のアクが少ないチンゲンサイ。雨除けハウス栽培、環境保全型農業コンクール優秀賞受賞歴を持つ

◀表面が白みをおびた白芋は春先まで。新居浜市大島産はこのほか甘く、食味の良さで定評あり

農産物以外も

バラエティ豊か

餅やおはぎ、コノシロの押し寿司、煮物などの惣菜類、自家栽培ニンニク使用の焼肉のたれ、地元養蜂家による蜂蜜、こだわり卵、おいしさが評判を呼ぶ米粉パン、ミカンの皮を使つた石けんなどのエコ商品まで。どれも生産者の知恵とアイデアから生まれた安心・安全の新居浜産です。



▲市内の飲食店も使っている「焼肉のたれGoGo！」



▶環境にもやさしい「みかん石けん」



▲鮮魚コーナーには郷土料理「ふぐざく」も並ぶ



▲思わず手が出そう！マカロンやスイートポテト、マドレーヌなど手づくりスイーツ



【ピンポイントmap】



【広域map】



● 毎号、表紙が楽しみです。折々の四季を感じることができ、わくわくしながら、そして、なごまされています。

● 2月号の表紙「節分」嬉しかったです。子どもの頃は、豆をバラバラと大量にまいていたことを思い出しました。現在はどうかでしょう。2、3粒まいて儀式だけで終わってしまいますが、スパーでは豆はたくさん売っているし、近年では恵方巻きも多く売られています。行事に振り回されている現代ですね。

(西条市・松尾 紀子さん)

● 京都から愛媛に来て、早や8年が経ちますが、まだまだ知らないことが山ほどあります。

● 2月号の「農の風景」で紹介していた「三間川の土手焼き」の写真を見て感激しました。1年は、あつという間に過ぎてしまっていますが、ふと立ち止まって、風物詩を見て感じて楽しむことは、本当に素晴らしいと思います。

● 土手焼きは、農家の人にとって無くてはならない、農の風景だと感じました。

(四国中央市・曾根 辰也さん)

● 子どもの頃、私が知っていたかんきつは、「みかん」「伊予柑」「八朔」だけでした。現在は、たくさん種類があり、次々と初めて聞く品種が生まれてくるように思います。それぞれに味の特徴があり、食べごろがありますよね。昨年末に県外の知人に「紅まどんな」を送ったところ、美味しかったので、もう一度、と言われたときには遅かった。2月号の特集に掲載されていた「食べ頃カレンダー」もっと早く知ることが良かったです。

(西条市・山内 美花さん)

● 2月号のふるさとESSAY「いつまでも田舎娘のまま」良かったです。テレビ愛媛アナウンサーの久保田夏菜さんは、明るく素直な女性だと感じました。

● 「えひめの食」食べちゃおうかな〜のイメージにピッタリですね。これからも、フレッシュさと元気で、県内の農産物の良さを伝えてください。

さいね。

(今治市・寺町 トヨさん)

● 2月号の「JA直売所めぐり」で紹介していたJAれんげ市場/すこく行ってみたと思います。

● 冷凍イチゴ、とても大きな文旦、こだわりの豆腐など、他の直売所にはない、ここでしか手に入らない独自の農産物や加工品があるんだなあと感激しました。これこそが、直売所の本来の姿なのではないかと思います。休日には、ぜひ、足を延ばして訪ねてみたいです。

● 巻きようかん、蒸し饅頭など、食べてみたいものがたくさんあつて迷ってしまいます。私は東子に住んでいます。県内でも東子と南予では全然、農産物も異なるものだと感じました。移動直売所があつて、南予の直売所が東子にも来てくれたら楽しいと思います。

(今治市・岡本 妙子さん)

● 初めてのお便りです。目につくところに「あくり〜ど」があるので、読む機会があまりありませんでした。何気なく裏表紙からページをめくってみると、今月の素材として「プロッコリー」のレシピが載っていたので、これは簡単と思いつき、さっそく畑でプロッコリーを採ってきて、調理しました。

(西条市・三宅 住枝さん)

● 今年のはじめ、自分で育てたカリフラワーを収穫しました。定植から毎日の水やり、肥料やりなど面倒だと思いましたが、農家の方もっと広い場所がたくさん野菜を栽培しているのだと思うと、すごく大変な仕事だと改めて感じました。反面、自分で育てた野菜が消費者の皆さんに食べてもらえる「幸せな」仕事なんだとも思いました。

● 野菜農家の皆さん。これからもみんなの食卓に美味しい野菜をいっぱい届けてください。

(今治市・藤田 亜紀子さん)

今月のクイズ

「JAグループのプライベート商品「エーコー」マーク商品は、誕生〇〇周年を迎えるでしょうか？」

「〇〇周年」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。



締切り

平成24年5月10日(当日消印有効)

発表

「あくり〜ど」6月号で発表します。

当選者発表

2月号の答えは「せとか」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

白木 泰子さん (西条市)	竹田久美子さん (西条市)
石川 治代さん (西条市)	別府 豊子さん (今治市)
水口まき子さん (今治市)	田中 克也さん (松前町)
矢野美恵子さん (大洲市)	沖中 良久さん (大洲市)
井上 邦雄さん (西予市)	山本 祥司さん (宇和島市)

編集後記

★春は出会いと別れの季節。4月1日付で異動になりました。まさかの2度目の広報担当として3年間、いろいろな取材で、様々の皆さまにご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。4月からは、まさか²の50歳過ぎでの大阪単身赴任。愛媛の地酒「しずく媛」を飲む機会が少なくなるのが残念です。皆さん、お元気で！本当にありがとうございました。
(平岡 正行)

NOW NOW

COOKING

今月の素材

アスパラガス



アスパラギン酸のパワーに脱帽
疲労回復、免疫力、美肌力もアップ

▶(右前) アスパラガスの煮浸し、(右後) アスパラガスのスープ、
(左) アスパラガスのケーキサレ



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

アスパラガスのケーキサレ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約488kcal

アスパラガス	4束
玉ねぎ	1/2個
ベーコン	4枚
ホットケーキミックス	100g
卵	1個
牛乳	50cc
オリーブオイル	大さじ1
塩	小さじ1/3
粉チーズ	大さじ3
バター	適量
小麦粉	適量

〈作り方〉

- ① アスパラガスは根元の固い部分を取り除き、塩茹でし、3cmの長さに切る。
- ② 玉ねぎ、ベーコンは1cm角に切る。
- ③ ボウルに卵を割りほぐし、ホットケーキミックスを入れて混ぜ合わせる。オリーブオイルと塩、粉チーズも混ぜる。
- ④ パウンド型にバターを塗り、小麦粉をはいたものに③を流し、表面をならして180℃のオーブンで焼き色がつくまで(約30分)焼く。

アスパラガスのスープ

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約134kcal

アスパラガス	3束
玉ねぎ	1/4個
バター	50g
薄力粉	大さじ2
だし(和風)	2カップ
塩	少々
コショウ	少々
水	100cc

〈作り方〉

- ① アスパラガスは根元の固い部分を取り除き、穂先の3cmを残して、1cmの輪切りにする。
- ② 玉ねぎはみじん切りにする。
- ③ 鍋にバターを熱し、玉ねぎが透き通るまで炒める。
- ④ ③に薄力粉を振り入れて、粉っぽさがなくなるまで炒める。
- ⑤ ④にアスパラガスを加えてから、水を入れて煮立てば弱火で5分間煮る。
- ⑥ ⑤をミキサーにかけて鍋に戻し、だしを加えて塩・コショウで味を調える。
- ⑦ 器に盛り、①の穂先を浮かせる。

※「だし」は洋風、コンソメなどでもよい。

アスパラガスの煮浸し

〈材料・4人分〉 ※1人あたり約24kcal

アスパラガス	2束
だし(和風)	200cc
① 塩	小さじ1/4
薄力醤油	小さじ2
ミリン	小さじ2

〈作り方〉

- ① ①を沸かして、冷ます。
- ② アスパラガスは根元の固い部分を取り除き、塩茹でし、5cmの長さに切る。
- ③ ②が熱いうちに①に浸ける。
- ④ 好みに鷹節などをかける。

POM 日本の果実ーゆず・レモン・なつみかんー



好評発売中

(500mlペット)



『瀬戸内で育った3つの果実を
おいしくブレンドしました。』

【果汁10%/希望小売価格140円(税抜)】

①瀬戸内産のなつみかん・ゆず・レモン果汁を使用しています。

②香り豊かな「ゆず」、酸味が爽やかな「レモン」、ほろ苦さが心地よい「なつみかん」それぞれの特長を活かせるようバランスよくブレンドしています。

③リラックスできる「豊かな香り」とリフレッシュできる「甘酸っぱさ」で、暑い季節にも最適です。

④クエン酸3,000mg配合で、ココロもカラダもすっきりリフレッシュできます。

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



ニッポンの
期待に
応えて
いきたい。

全農所属選手
石川佳純

**日本の
元気印
キャンペーン**

安心と信頼の
くらしの良品

**総額1,000万円相当をプレゼント
エコープマーク品誕生40周年記念!**

クイズに答えてビッグチャンス!

<p>A コース</p> <p>石川佳純選手からのサービスエース</p> <p>スマッシュ賞 石川選手直筆 サイン入り ラケット 10名様</p>	<p>B コース</p> <p>ご愛顧にお応えするリターンエース</p> <table border="0"> <tr> <td>金星賞 農協全国商品券 10万円分 50名様</td> <td>白星賞 農協全国商品券 1万円分 100名様</td> </tr> </table>	金星賞 農協全国商品券 10万円分 50名様	白星賞 農協全国商品券 1万円分 100名様	<p>5,000円 相当</p> <p>石川選手 お気に入り</p> <p>石川選手が選んだ エコープマーク品 セット 800名様</p> <p>エコープマーク品セット内容は10種/エコープマーク品セット内容は10種/エコープマーク品セット内容は10種/エコープマーク品セット内容は10種/エコープマーク品セット内容は10種</p>
金星賞 農協全国商品券 10万円分 50名様	白星賞 農協全国商品券 1万円分 100名様			

●Aコース、Bコース
いずれかをお選びください。
●各コース内で賞品は
お選びいただけません。

郵便はがきで
どなたでもご応募いただけます。

クイズ の中に当てはまる数字を入れてください。

**「エコープマーク品が
誕生して今年で□0周年」**

ヒント:エコープマーク品は今年で誕生40周年を迎えます。

【応募方法】郵便はがきにクイズの答えとご希望のコース、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入の上、ご投函ください。
【応募締切】6月30日(土)まで(※当日消印有効)
【応募先】〒119-0197 郵便事業(株)蒲田支店賞品分室
「エコープマーク品 誕生40周年記念!プレゼント」係
【抽選発表】当賞券は賞品の抽選をもってかえさせていただきます。
※当賞券の抽選は抽選機による抽選を行い、抽選結果をインターネット上で発表いたします。
※賞品は数量に限りがあります。予めご了承ください。

アンケートに答えてハッピーチャンス!

<p>ハッピー チャンス</p> <p>石川選手が選んだ エコープマーク品 セット 100名様</p>	<p>5,000円 相当</p> <p>【応募方法】携帯電話またはパソコンからインターネットでご応募ください。右記アドレスにアクセスの上、ガイドラインに従って入力をお願いいたします。 ※ご応募は1人様1回限りとさせていただきます。 【抽選方法・当選発表】応募期間終了後、厳正な抽選を行い当選者を決定いたします。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。</p>
--	--

携帯・パソコンからアンケートに
お答えいただくとプレゼントが当たる!

<http://www.a-coop40.jp>

携帯電話からご応募の方はコチラから

締切は6月30日!どしどしご応募ください!

この冊子は再生紙を使用しています。

※Aグループ従業員は応募できません。